

2020年1月12日（日）

主 題：「義人の祈りには力がある」（2）

—互いに祈り合う幸い—

テキスト：ヤコブの手紙5章13～18節

### はじめに

- ・前回、私たちキリスト者は「アーメン、ハレルヤ」という歩みが大切であることを学びました。苦しい時に神に向かい祈り、「アーメン」（本当です。まことです。）と言って祈りを結びます。また嬉しい時には神に向かい「ハレルヤ」（神をほめたたえます。）と言って、神を賛美するものです。この2つは、私たちの日々の生活の両輪のようで、日々の生活で神にお捧げするものです。
- ・ところで、私たちは他人が病気をかかえたり、問題を抱えていることを耳にすると、「お祈りしていますね！」と言います。それはとても、大切なことです。しかし簡単に、「お祈りしています。」と言いますが、本当にお祈りしているのでしょうか（一種の「あいさつ用語」になっていないか）。
- ・私がドイツで、ドイツ語を学習し始めた頃でしたが、こんな事がありました。ドイツ語に“Gott sei Dank”（ゴット・ザイ・ Dank）という表現があります。これは、「神に感謝がありますように」という意味です。日常的には、「ありがたい」という意味で使われています。私はこの表現を普通の会話で使っていたところ、教会のある長老から戒められたことがありました。
- ・それは、本当に私が「神に感謝があるように」と心から言っているかでした。ドイツ社会では神を知らない人たちが、神の名を安易に使い、日常的に「ありがたい」という意味で、安易に使っていたからでした。ですから、心から“Gott sei Dank”と思い、言うべきであると忠告を受けたことがありました。このような表現は、英語や他の言語でもあります。
- ・皆さん。私たちも軽いタッチで「お祈りします」と言いながら、その後忘れてしまうことはないでしょうか。その言葉には心がなく、あいさつ用語の一つとなっただけではないでしょうか。
- ・ヤコブは、そのような「あいさつ用語」のような「祈り」を教えたのではありません。いいえ、「祈りには力」があり、「正しい人」の祈りにはさらに大きな力があることを教えました。
- ・そこで今日は、その力ある祈りはどんなものかと考えてみましょう。2点

### 大切なポイント

## 1. 力ある祈り

### 1) 3つの祈りの形

・ヤコブは今日のテキストから、祈りには3つの形があることを教えています。

#### ① 私が祈る祈り

5:13 あなたがたの中に苦しんでいる人がいれば、その人は祈りなさい。

・苦しんでいる時、まず自分自身が神に祈る祈りです。他の人に祈ってもらうことも大切ですが、つたない、また乏しい祈りであっても、自分が祈ることは大切です。まず、ここから始まらなければならないのです。

#### ② 他人の祈り

5:14 あなたがたのうちに病気の人がいれば、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。

・私たちは問題に直面した時、自分が祈ることは大切ですが、兄弟姉妹に「どうぞ、祈ってください」とお願いすることも大切です。兄弟姉妹が、心を合わせて一つのことのために祈ってくださる、これはとても幸いなことです。

#### ③ 互いに祈り合う祈り

5:16 ですから、あなたがたは癒やされるために、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、働くとき大きな力があります。

3番目はお互いのために祈る祈りです。これは双方が相手のために祈りあって、はじめて意味のある祈りとなります。

・次に、神が聞いてくださる「祈りの条件」とは何かを考えましょう。

### 2) 神が聞いてくださる祈りの条件

#### ① イエスの名によって祈る

イエスは弟子たちにこう教えられました。

14:14 あなたがたが、わたしの名によって何かをわたしに求めるなら、わたしがそれをしてあげます。ヨハネ

・名前は存在を現します。イエスは私たちの祈りを、父なる神にとりなしてくださいませ。この力あるイエスの名によって祈るのです。なんと幸いなことでしょう。

#### ② 信仰による祈り

5:15 信仰による祈りは、病んでいる人を救います。主はその人を立ち上がらせてくださいます。もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。

・神が聞いてくださるかどうかわからない、という思いで祈るではありません。祈る以上、神は全能でありますから、私たちは小さな存在ではありますが、神は私たちの祈りを聞き、そして答えてくださると信じて祈るのでなくてはなりません。それが信仰による祈りです。

#### ③ 正しい人の祈り

5:16 ですから、あなたがたは癒やされるために、互いに罪を言い表し、互いの

ために祈りなさい。正しい人の祈りは、働くとき大きな力があります。

- ・前回もふれましたが、罪をもったまま、どんなに祈ったとしても、神は聞き入れて下されません。このような祈りの条件を満たす祈りは、どのような結果をもたらすのでしょうか。

### 3) 祈りの結果

- ・信仰の祈りは、①病む人を回復させます。②信仰の祈りは罪の赦しにあずかることができます。③そして信仰の祈りは、大きな力を生み出します。

5:16 ですから、あなたがたは癒やされるために、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、働くとき大きな力があります。

- ・祈りはしばしば、人間的なものをはるかに超えた、力ある働きを生み出します。それは神がなさることです。教会の存在こそ、神が祈りに応えてなしてくださる驚くべき働き、聖霊のみわざであります。ですから、ヤコブは互いに祈り合うことを勧めました。

## 2. 互いに祈り合いなさい

5:16 ですから、あなたがたは癒やされるために、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、働くとき大きな力があります。

- ・ヤコブはここで罪の問題を取り上げていますが、注意していただきたいと思います。すべての病気が罪の結果であるとは言えません。しかし時には、罪の結果ということもあります。したがって、ここでは病気の問題と罪の問題から離れて、16節だけを取り上げてみましょう。
- ・「互いに」という言葉を2面から考えてみましょう。

### 1) 悪い意味での「互いに」

4:11 兄弟たち、互いに悪口を言い合ってははいけません。自分の兄弟について悪口を言ったり、さばいたりする者は、律法について悪口を言い、律法をさばいているのです。もしあなたが律法をさばくなら、律法を行う者ではなく、さばく者です。

5:9 兄弟たち。さばかれることがないように、互いに文句を言い合うのはやめなさい。

- ・この2箇所に出てくる「互いに」は、良くない意味での「互いに」です。一方だけが、つぶやいているのではなく、お互いが悪口を言い合っている、あるいはつぶやき合っている姿です。ヤコブは迫害という苦しみの中で、このような状態に落ち込んでいくことを非常に警戒しました。
- ・たださえ、外からの敵が迫ってきており、その敵と戦っていかなければならない現実の中で、内側が互いに悪口を言い、さばき合うならば、戦いに勝つことはできません。いわゆる内輪もめです。これは一番怖いことです。

- ・「互いに」ではなく、一方だけが悪口を言っている状態は、そんなに怖くはありません。たとえば、AさんがBさんの悪口を言っているとしましょう。しかし、Bさんは意に介さず、心穏やかであれば、問題は起こりません。相手に対して愛と、赦しの心をもっていれば、どんなに悪口を言われても問題にはなりません。決して混乱にはならないでしょう。
- ・「互いに」とは、向き合う姿勢のことです。外から迫害と苦難が迫っている時に、お互いが向き合い、つぶやきを言い、悪口を言っているのは問題が起こるのは当たり前でしょう。つまり、このような悪い意味で、「互いに」という姿勢をとらないことです。大切なのは、良い意味での「互いに」で向き合うことです

## 2) 良い意味での「互いに」

- ・では、良い意味で向き合うとは、どういうことでしょうか。  
5:16 ですから、あなたがたは癒やされるために、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、働くとき大きな力があります。
- ・良い意味で向き合うとは、互いに罪を言い表すこと。そして互いのために祈ることです。これが良い意味で向き合い方です。
- ・しかし、これは現実問題として難しいことです。簡単なことではありません。他の人の悪い点はすぐ目につき、問題にしたいくなります。それが清められてない私たちの性質です。人間の常として、言い訳の一つでも言いたくなります。自己弁護したくなります。これは私自身も経験したことです。
- ・罪を言いあらわすということには、抵抗があります。「ごめんなさい！」と言えすむことかも知れませんが、なにか私の負けのような気になり言えないのです。ましてや、互いのために祈りなさいと書いてありますが、100%心から赦していない相手にために、祈るということはたやすいことではありません。皆さんは、いかがでしょうか。
- ・私たちは皆、教会がリバイバルを迎えることを歓迎します。教会がさらに活性化し、私たちの信仰が生き生きしたものになることを歓迎します。教会はなぜ、もっと祝福の中を歩むことができないのかと、問題提起されることがあります。
- ・実は、このようなところに、その秘密が隠されているのではないのでしょうか。  
イエスは言われました。 **マタイ福音書**  
5:46 自分を愛してくれる人を愛したとしても、あなたがたに何の報いがあるでしょうか。取税人でも同じことをしているではありませんか。
- ・気の合う人のために祈ったり、親切にしたりすることは難しくありません。あるいは、私と関係のない人のために祈ることもやさしいことです。たとえば、「大阪市の274万人の魂が救われますように！」と祈ることは、難しくありません。
- ・問題となるのは、身近にいる、それなりにかかわりのある人なのです。ねたみの対象となるのは、身近な人です。たとえば全然関係のない会社のだれかが、昇進しても別にどうということはありませんね。しかし、同じ会社の同期入社の人が、自分より先に昇進となれば穏やかではありません。これは、なぜでしょうか。
- ・身近にいる兄弟姉妹たちこそ、心から互いに愛し合い、喜びと悲しみをともにし合っ

ゆくはずではないでしょうか。それなのに、お互いの間がうまくいかないのです。これは私たちが抱える課題です。

- もしも、私たちがこうした課題に直面した時は、これを解決しなければ勝利はありません。「互いに罪を言い表す」、「互いのために祈る」ということは、私たちの心にとって大きな物差しのようなものです。神は私たちに「自分の罪を言い表せるか」、「相手のために祈れるか」という、物差しをあてがわれるのです。それができないならば、相手の非を責めることはできないよ、ということです。
- このように、神はみことばを通して、私たちの信仰は試されます。テストされるのです。
- 16節最後に、「**正しい人の祈りは、働くとき大きな力があります。**」とあります。ここでいう正しい人とは、今申し上げたことにおいて解決をもった人のことです。もし私たちが互いに悪口を言い合ったり、互いにつぶやきあったりしているならば、私たちは正しい人とは言えません。
- イエスはこんな私をも愛してくださり、十字架におかかりくださいました。それは、生まれたままの肉の私たちは、正しい存在ではありません。神から離れていたからです。しかし十字架にかかれたイエスに出会い、罪を認め、素直な心にさせていただいたのです。
- 聖霊は助け主として私たちに働き、神の前に正しい人となるように助けてくださいます。私たちの祈りが本当に届くために、この16節は大切なことを教えてくれています。教会の祝福は何か考えるとき、神が特別なものをポンと与えてくださるようなことはありません。私たちの心の中に、その秘密があることを覚えなければなりません。
- 聖霊が働いてくださるとは、こういう面で私たちの中に主のわざが始まっていくことであると思います。私たちには体面、プライドというものがあります。あるいは何か抵抗を感じることもあります。しかし、聖霊は私たちの内に働いてくださいます。
- 聖霊が働いてくださるとき、私たちは体面もプライドも、すべて横に置くことができます。そして「私が間違っていました。赦してください。」と告白することができるのです。教会のリバイバル（刷新）、活性化は、そこから始まるものです。
- いかがでしょうか？ ヤコブは「**正しい人の祈りは、働くとき大きな力があります。**」と言いました。私たちは決して正しい人ではありません。しかし十字架にかかれたキリスト・イエスによって、罪の赦しをいただきました。そして正しい人と変えられたのです。ですから、互いのために祈ることができるものとされました。

## ま と め

主 題：「義人の祈りには力がある」（2）

—互いに祈り合う幸い—

- ヤコブは言いました。「**正しい人の祈りは、働くとき大きな力があります。**」  
私たちは、祈りが力あるものとなることを願います。
- では、どうすればよいでしょうか。

**5:16 あなたがたは癒やされるために、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。**

- ・力ある祈りの秘訣は、次の3点です。
  1. イエスの名によって祈る
  2. 信仰によって祈る
  3. 互いに罪を言い表し、互いのために祈る

\* God bless you!